

時事新報

第二千六百四十九號
明治三十三年五月九日 金曜日
舊曆庚申三月廿一日 (庚申)

時事新報定價

零售每份五分
本埠每月一元二角
外埠每月一元五角
半年七元
全年十二元

一行	五分
二行	十分
三行	十五分
四行	二十分
五行	二十五分
六行	三十分
七行	三十五分
八行	四十分
九行	四十五分
十行	五十分

時事新報廣告料前金

一月五元
三月十元
半年十五元
全年三十元

時事新報

米國の生絲市場に注目す可し

北米合衆國は日本生絲の大得意場なり現に昨年度の如き我生絲の米國に出でたるは實に二萬三四千俵に上り阿國にて使用する生絲總額凡そ六割を占めたりと云ふ抑も我生絲の販路を米國に開きたるは明治八九年の頃にして爾來大に盛價を擡し同十年頃に至りては既に千四百俵ばかりの輸出あり其後年々輸出額を増して今日に至るに至りては決して偶然の事に非ず米國にて生絲の起りたるは極近年の事にして當時支那より輸入したる生絲は向も粗製手練りにして手工及びメシシ生絲に使用するに過ぎず然らば伊太利生絲は如何と云ふに品質は固より上等なれども其價格割合に高くして米國市場の手に合ひ難く恰も好し日本生絲は其中間に位せしを以て品質價格共に米國人の需要に適し爾後近年に至るまで獨り米國の市場を専らにしたりたる次第なれども先年歐洲外交路の都合にて獨り伊三國の阿國あり佛國は伊太利が建國の際、ナポレオン三世の援助を得て辛うじて國の復讐を免れ國命を正に絶たんとするに際したる其大恩を思ひせしめて獨り二國を閉鎖したるを以て伊太利生絲に重き關稅を課したるを以て伊太利生絲商人は佛國に送るの難きを知り近來その販路を米國に開かんと大に勉勵するものなり且つ生絲賣場を爲り伊太利より米國に出張する者は數箇の生絲賣場と一手專賣を願したる特約を結び云はれ其委託を受けて生絲の買込を專する者にして賣主は年々その生絲を同買込人に托するが故に買込人は米國に於ける生絲の需要者にして諸々より充分の利益を得て其買込みたる生絲を就き賣場屋の方に於て品質に云々の欠陥あり無きに如何なる不都合ありて賣場屋に賣場を譲りたりと如何か苦情を陳するときは賣場屋は其れを以て其買込人と後來の賣場屋に供するものと認め伊太利生絲商人の買込にして之を日本の生絲商人が買込し其代價を受取りし之を限りて賣場屋

を絶ちて買場者が後日苦情を言ふも耳に掛けざるのみならず其苦情を買場者に通じて買場屋と買場者との媒介を爲し雙方の情意を貫徹して自然製絲改良の端を開くなどの工夫を欠くものに比すれば固より四年の間に非ざるなり唯今日の處にては日本の生絲が先づ米國に於て米國の市場を専らにしたりたるを以て米國中には日本生絲ならざれば物の役に立たざるが如く買場者なきに非ざれば一朝伊太利生絲商人の取引を開きて其味を覺ゆるときは或は忽ち嗜好を移して直段に買場との相違あるも彼を取りて此を捨るの勢を成す可きやも測られず扱て又支那産の生絲は其性質の精良なる實に世界第一にして此點に於ては固より争ふ可らざれども日本の爲めには幸にして支那の爲めには不幸にして之を製するに機械を用ひず諸々勝手の手加減を以て製絲不精の製法を爲すが故に生絲の質なるにも拘はらず其美を商品上に現はすに由なく隨て其需要も廣からず現に明治十一年頃米國に輸入したる支那生絲は凡そ一萬俵に上りたりしが年々歳々その需要額を同うして十年一日の如く昨年度の如きも矢張り一萬三千俵位に過ぎざりしと云ふ然るに時勢の進歩するに隨ひ支那人も亦少しく悟る所あり近來漸く製絲機械を用ふるの端を開きたるは支那の生絲歴史に未曾有の大變にして此機械製絲が大に米國人の需要に適し支那人が商賣の損益上、争ふて機械を用ふることも爲らば本來世界第一の生絲、誰れか之と競争するものあらんや需要の増加は目前直接に在る可きなり開く支那生絲の米國輸出は年々切切形如く大抵一萬俵を度としたりしに兩年來凡そ三千俵を増加したる此輸出増額は全く機械製絲の輸出に始りたるが爲めなりと云へば今後支那人の意向は自から窺ひ知ると得べく我生絲輸出者は米國の生絲市場に於て決して安閑たる可らず一方には伊太利の買込人、一方には支那の生絲商人に當りて從來の得意場を縮めざるやう之れと競争するも尙且つ難し況んや今後ますます其販路を廣めんとするに於てをや重々容易の事に非ずと覺悟して大に奮發する所なる可らず此時に當り我生絲製造家並に其向きの商人は是れまで通りの仕來りを守りて黙々之を看過す可きや我輩は我生絲の輸出法に就き聊か身見なきに非ざれども何は扱て置き今日の要務は兼ねて生絲の商業上に就き充分の注意あるに於て又相應の資力ある者が一個人として若くは一團體の代理者として自から米國に出張し半年なり又一年なり需要地實際の現況を探るのみならず其博在中に多少の技術を取り寄せて試みに之を賣場屋に其買場の手續より需要者の好みに至るまで十分に之を研究したる處にて更に直接輸出の方法を立つるか或は製絲上の改良を謀るか内外實地相照らし適宜の考案を設くるの一事に在る可しと信す然るに日本輸出品中第一等の生絲に就き古來其需要地の現況を探らんとて實地調査の海外に赴きたる者少なきが如き何んぞ其れ他の輸出品なる者が米國市場の急務を取て我れに代ると

官報

○大藏省訓令第七十四號
府縣
内國稅收費ニ關スル物件ノ借入又ハ不用物品ノ賣却ニ關スル諸契約ハ府縣知事ニ於テ適宜締結スルヲ得但物件ノ借入ハ仕拂算書ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シメ金額内ニ保ルモノトス
明治三十三年
五月八日
大藏大臣 伯耆 正義

水産部品評(前編の續)

北海道の出品は館入りて正面より右の兩側を折曲りて其裏面一帯に陳列したり第一に目立つは正面裏面の鞋の壁引凡そ六十餘品何れも形體大なる惣物の銀鱗光彩一見目を驚かすものにはなし價は一尾十二三錢より十四五錢中には二十餘の付札もあれども非常の安値にて概ね約定済となる其下の硝子箱には身欠鮮魚あり價は一七七八錢より十二三錢なり鱈も數十點あり何れも良品其中に色あしく鱈の間々あるものは古品からん油茶及灰飽等粒は大小あるも洗石に粗製はあきやうに思はる鱈は函館形にて三枚並へ二十枚一把のもの大抵十六七錢東は一一定あれども結繩の太きに過くるは清人に信を欠くとあるべし煮製の鮭二點あり其中全體煮製のものと立割一本とは申分なれども立割と昆布にて巻立たるものあり外部に腐蝕を蒙りて肉に傳毒の恐れあるものは見苦るし名産昆布は右の壁側に陳列せり清國向きの長切昆布は整束一定して見事なり花折昆布元備昆布等も東阿一なれども元備昆布に花折昆布の小札付きたるものあるは何乎の誤りか長切は清國向にて内國用にはあらざれども煮食には柔かにして佳味なり其中三石の三場所殊によるし花折は厚くして内國用あり元備は市廣く多くは細工昆布の原料あり天鹽昆布は色黒く見之恐しけれども味は佳なるものなり都府の人之を知るもの少なし縮緬昆布、猫足昆布、がもり昆布、柄長昆布、水昆布等は何故か出品を見ず縮緬の脚の長きを斬の如く束ねたる出品あり十貫目二圓四十錢の安値なりボウマアハ本來カケマアなり香開縮緬等も相當の出品あり乾鮎は見え宜しからざれども是亦輸出品あり總て北海道の出品は價廉なれば中には腐蝕を來すべき品もあれども大抵約定済の札付きたるは好人氣なり帝國水産會社の出品は北海道の産は勿論他地方の産をも體々取交せ販はししたれども何となく實業に不案内なる氣味あり藤野辰太郎、細原角兵衛兩氏の建議は稍内地の需用に適するも未だ完からず概して建議は未だ不十分なり雲丹も三四名よりの出品あり現品は味ざれども皆煉雲丹製なり端に鐵蹄の出品あり此れは裁製乾燥共に拙製色合は殆ど意製かと思はるる程に見苦し其外乾チカカ乾ヤウリ魚等は内地人が珍しと思ふのみ尤もチカカなる魚はアカサヤ一名アマサヤの大なるものなり石花菜も稍佳なるものも出品あり此外に海扇貝の風乾、同貝柱、開乾、同アブラコ、乾鰯、鯛、鰻、鱈、同味、海苔、鰯、鰯、鰯、油、等の出品あれども左で見るべきものなし乾鮎貝柱は清國輸出向きに重要なものなるのみ今回の出品總額の少きを以て卜するも北海道に水産物の餘は多きを知らるるなり (未完)

力車の時代を比

ども汽車の既、の事を考ふれば、今日午後四時、は西京大坂を、貨車は、同へ、餘餘なり尤も、願で差圖を、は前に云ふ、夜汽車上

